

次なる成長へ答え共有

70周年記念パネルディスカッション



創立70周年を迎えたエイト日本技術開発（EJEC）は、6日に開かれた記念セミナーの岡山メイン会場で、金声漢社長と社員とのパネルディスカッションを開いた。写真。金社長は「次なる成長のためにEJECがどんな会社なのか、どんな会

社になりたいのか、どんな会社を目指すべきか、改めてその答えを皆さんと探して、それを具現化し共有していきたい」とメッセージを送った。Ⅱ3面参照

ディスカッションのテーマは、「Next Vision Talk—70年の歩みの先に見える未来とは?」。管理職の山口支店・芦田悠輔氏、社員の中国支店・榎尾果歩氏が参加し、さまざまな質問を社長との間で交換しながら進行的した。

榎尾氏が「社長就任時の所信表明に掲げた課題への対応をどの程度実現できたか」と質問し、金社長が「組織再編や新システムによる販管部門の仕事の手直し、人材採用拡大など掲げた課題にはほぼ着手できた。新たに

スタートした第6次中期経営計画の中で優先順位を付けながら、さらに取り組みを進めたい」と答えた。

芦田氏は、社長就任時から全国各拠点を積極的に回って意見交換している金社長に「風通しの良い会社になっているか」を問うた。金社長はまだまだ足りていない。誰に言っているのか分からないということもなく、会社には「意欲を示した。

そのほか、6次中計の大きなキーワードとなっている若手層への業務委譲について意見を交わした。同社では、社内的な責任者として仕事を動かす者である「プロ責」に関する年齢や資格などの縛りを6月から撤廃している。榎尾氏は「プロ責にな

ることへのやりがいを感じているが、責任が重くなることに不安もある」と先輩、上司に対して適切なフォローを求めた。芦田氏は管理職の立場で「フォロ

ーの部分は重要だと認識しているが、あまり先回りし過ぎない程度のフォロワーが大事だと思っている」との見解を示した。これを受け、金社長は「今時の優秀な若者は『ありのまま』の自分で生きたいとの思いがありながら、『何者か』になりたいという大きな矛盾を抱えていると分析している。自分の中で大切にしてきたありのままにどう折り合いをつけて何者になるのかを判断してもらったためのボールを投げた」といつことを理解してもらいたい」と期待を示した。

